

第229回 大阪小児科学会WEB (LIVE) 配信

◇◇ プログラム ◇◇

■ Aセッション(14 : 00~14 : 24)

座 長 坂 田 尚 己 (近畿大学医学部 小児科)

1. ヒトパルボウイルスB19感染時に貧血と異形成を伴う骨髄増殖所見を呈した女児例
近畿大学病院 小児科思春期科
永谷奈央, 坂田尚己, 田中 藍, 大島理奈, 岡野意浩, 杉本圭相
2. 当院におけるカプセル内視鏡の有用性および安全性の検討
大阪大学大学院医学系研究科 小児科学
山野由貴, 木村武司, 福井美穂, 大沼真輔, 福岡智哉, 里村宜紀, 安田紀恵,
橘真紀子, 三善陽子, 別所一彦, 大藪恵一

教 育 講 演(14 : 24~15 : 24)

座 長 大 藪 恵 一 (大阪大学大学院医学系研究科 小児科学教室)

専門医制度 更新基準 iii 小児科領域講習 (1点) 対象講習

「溶血性尿毒症症候群の診断と治療」

芦 田 明 (大阪医科大学 小児科)

■ 休 憩(15 : 24~15 : 34)

■ 総 会(15 : 34~15 : 54)

議 長 泉 谷 徳 男 (泉谷こどもクリニック)

1. 会長挨拶
2. 令和2年度決算報告及び令和3年度予算審議
3. 小委員会より
4. 倫理問題について

■ Bセッション(15 : 54~16 : 30)

座 長 白 敷 明 彦 (市立ひらかた病院)

3. 生後2か月で発症した卵巣捻転の一例
堺市立総合医療センター 小児科¹⁾, 大阪母子医療センター 小児外科²⁾
植田典子¹⁾, 高野良彦¹⁾, 山道 拓²⁾, 星野美麗¹⁾, 藤田真祐子¹⁾, 田中智彦¹⁾,
高柳恭子¹⁾, 入山 晶¹⁾, 遠藤友子¹⁾, 井代 学¹⁾, 川上展弘¹⁾, 白井規朗²⁾,
岡村隆行¹⁾

4. 脾腫、血小板減少を契機に診断した肝外門脈閉塞症の症例
大阪赤十字病院 小児科¹⁾、大阪赤十字病院 小児外科²⁾、
大阪赤十字病院 消化器内科³⁾、大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学⁴⁾
白石 恵¹⁾、藤野寿典¹⁾、荻野 諒¹⁾、天満祐貴¹⁾、大野耕一²⁾、
上林エレナ幸江²⁾、邊見慎一郎³⁾、徳原大介⁴⁾、趙 有季⁴⁾、住本真一¹⁾
5. 通常の抗菌薬投与で改善の乏しい肺炎を契機に診断した気管支異物の一例
大阪医科大学 小児科¹⁾、高槻病院 小児外科²⁾
大関ゆか¹⁾、岡本奈美¹⁾、早野千明¹⁾、杉田侑子¹⁾、服部健吾²⁾、芦田 明¹⁾

第14回「低線量被ばくを考えるセミナー」

日 時：2021年4月3日(土)

大阪小児科学会（TKP ガーデンシティ心斎橋南船場B1B）終了後開催

会 場：学会終了後、同じ会場で引き続き開催。講演と質疑で約2時間を予定。

「福島甲状腺がん多発と放射線量との容量反応関係の分析」

大阪赤十字病院附属大手前整肢学園

山本 英彦 先生

2011年3月の福島原発事故から本年3月で10年が経過します。2011年10月から始まった18歳以下の甲状腺スクリーニング検査も4巡目を迎え、2019年6月までに、少なくとも228名の穿刺細胞診で診断された甲状腺がんが報告されています。がん研究センターの評価でも有病率ベースで通常の数十倍の多発であることが確認されています。しかし、多発の原因については放射線被ばくなのか、スクリーニング検査や過剰診断による見かけ上の多発であるかの論議が続いています。

このような中で演者の山本先生は 福島原発事故当初から事故と健康障害の問題を一貫して研究されてきました。そして、2019年9月に医学雑誌 *Medicine* に論文 *Association between the detection rate of thyroid cancer and the external radiation dose-rate after the nuclear power plant accidents in Fukushima, Japan* 「福島原発事故後の甲状腺がんの検出率と外部被ばく線量の関係」を発表され、甲状腺がんの検出率と外部実効線量率は明瞭な有意の容量反応関係を示すことを内外に明らかにされています。講演では、スクリーニング効果説や過剰診断説などがある中で、福島事故後の多発と放射線被ばくとの関係を分かりやすく解説いただきます。

なお、セミナー開催にあたり、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から十分な感染防止策を行ったうえでセミナーを実施したいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

主催：大阪小児科学会地域医療委員会